

日本基督教団
柿ノ木坂教会

牧 師 渡邊 義彦
協力牧師 松下 恭規

教会報

198号 2020年6月28日

〒152-0022
東京都目黒区柿の木坂
1-31-19
電話：03-3717-3870
Fax：03-3717-3916

「神を愛すること、隣人を愛すること」

—マルコによる福音書第12章29～31節—

牧師 渡邊 義彦



イエスはお答えになった。「第一の掟は、これである。『イスラエルよ、聞け、わたしたちの神である主は、唯一の主である。心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くし、力を尽して、あなたの神である主を愛しなさい。』第二の掟は、これである。『隣人を自分のように愛しなさい。』この二つにまさる掟はほかにない。」

(新共同訳聖書)

奴隷に対する勧めが、新約聖書の手紙の中にあります。たとえば、ペトロの手紙一2章後半、召し使いとなっていますが、奴隷たちへの勧めです。

そもそも、イスラエルの民は、エジプトで奴隷生活を400年以上に亘り過ごしてきました。また、奴隷とは言われていませんが、イスラエル王国時代の終わり、北イスラエルは、紀元前700年半ばにアッシリア帝国によって、南ユダ王国は、紀元前500年代にバビロン帝国によって国を破壊され、捕囚という仕方ですそれぞれ国の主だった者、働き手、労働力となる者たちが連れ去られる捕囚を経験しました。

その後、新約聖書の時代に至る歴史の中では、ユダヤ人たちは身分としての奴隷ではありませんでしたが、ギリシャ、ローマといった強大な帝国の支配下に植民地のように、属州として、傀儡の王を立てられてかろうじて住まうことを許されているようなものでした。

先に触れたペトロの手紙などは紀元1世紀後半の教会が、ユダヤ民族以外にも伝道してゆく中で具体的な奴隷たちと出会い、彼ら、彼女たちが教会へとやって来る中で、生活の問題であるとか、主人との問題であるとかが生じたことから記された勧めであろうと考えるのです。

奴隷というのは、現代、日本のわたしたちの日常にはほとんど馴染みがありませんが、アメリカでは公民権運動が起こるまで、1950年、60年代まで実際的な問題でもありました。

なぜ、聖書は、そして教会は奴隷の問題に特に注目したのでしょうか。奴隷の中にも善人である者も、悪人である者もいたことでしょう。しかし、彼らの生き方に、良い奴隷であろうと、悪い奴隷であろうと、彼らの逃れられない生き方があります。主人に仕えるという生き方です。支えるといった、さも自分が力を持っているかのように高みから言える生き方ではなくて、唯々、身を低くして、良い主人にであろうと、悪い主人にであろうと、良い奴隷であろうと、悪い奴隷であろうと、仕え生きるのです。

最初のキリスト教会がイザヤ書の苦難の僕の歌に注目したことと、奴隷たちの姿が礼拝にあったことは印象深く重なって集う者たちに覚えられたのではないかと思います。

苦役を課せられて、かがみ込み彼は口を開

かなかった。

イザヤ書の歌に、教会はキリストの十字架へのお姿に重ねて解釈しました。奴隷たち、最も身分が低く、身を低くして仕える彼ら、彼女たちの日常にも、またキリストのお姿を重ねて覚えたのではないか。

朝の祈りのときには、一緒に祈った奴隷の彼女が夕べの祈りのときにはもう来ない。どこかに売られてしまったのか、苦しい労役に死んでしまったのか。礼拝を一緒にすることが日常続いてゆくわけではなく、その一回が最後かもしれないという緊張の中で奴隷たちが礼拝を、祈りをささげている姿は、日常が安全で保証されて、将来の計画が自由に立てられる者たちにとって、終末を学ぶ姿であったのでなかろうかと思えます。

キリストは、最も大切な戒めとして、神を、あなたの全存在をもって愛せ、とおっしゃる。そして、隣人を自分を愛するように愛せ、とおっしゃる。しかし、わたしたちは日常の中で、この戒めがいかに難しいことであるかを痛感するのです。信仰を与えられて、なおいっそう、命じられていることと自らの実際とのギャップを思わされるのです。

今現在、わたしたちが置かれている世界の状況の中で、神を愛するから礼拝を守り続けると主張する。いや、隣人を愛するから彼らの命を守るために礼拝堂を閉めるべきだと主張する。神を愛することと、隣人を愛することが相矛盾することであるかのようなことになってしまうのです。

仕える、ということなのです。神に仕える、隣人に仕えることなのです。あの奴隷たちのように。

キリストは、弟子たちの、一日働き汚れてきた足元に屈み込み、彼らの足を洗ってくださったのです。それは招かれた客人たちのために奴隷たちのする仕事でした。主であるキリストが、弟子たちの足元に屈まれて汚れた足を洗ってくださるのです。

キリストが、最も身を低くされて、罪人たちよりも低いところに身を虚しくされて、仕

えてくださったのが十字架です。支えるといった高みからのことではなくて、仕えてくださったのです。すべての罪人に仕えてくださったのです。神を愛することと、隣人を愛することは、十字架にまで身を低く虚しくしてくださった主によって完全に成就されたのです。

わたしたちの、神への愛、隣人への愛、その献身はどれほど貧しいものであるかを日々痛く思わされます。高みから人を批判するには易く、自分を反省するにはまことに疎いわたしたちです。

しかし、主は、このようなわたしたちに、軛を負うようにとおっしゃいます。わたしの荷は軽いとおっしゃいます。

キリストの十字架の救いをいただいた者として、キリストが共に負ってくださる軛を負う覚悟を、この日、新たにしたいのです。神と人との、キリストと教会に仕える志を、このようときであるからこそ、なおいっそう新たにされて、神の招きにお応えし献身する者でありたいのです。

(2020年4月9日 洗足木曜日礼拝説教)

集会出席統計(月平均人数)

	2020年		
	3月	4月	5月
主日礼拝	58.0	30.8	38.4
聖書と祈り会	12.0	5.8	7.0
教会学校*	49.8	20.0	-休校-

* 保護者、教師を含む

(第1主日開催)	3月1日	4月5日	5月3日
聖餐夕礼拝	6	6	7

<どうぞよろしく>

「これまでの全ての出来事に感謝して」

なかの ゆう
中野 優

神様のお導きによって

このような状況の中、イースターの日に受洗の時が迎えられましたこと、とてもうれしく、私にとって忘れられない一日となりました。

私が受洗を決意したきっかけは、大きな出来事によるものではありませんでした。これまでの小さな出来事の一つ一つが私の心の中で積み重なり、広がって行き、ある日ふと、洗礼を受けようかなという思いに繋がっていったように思います。そのすべてが神様のご計画の中にあるように思わずにはられません。

その小さな一つ一つの出来事を思い出しながらお話させてください。

初めて自分の聖書を手にしたのは、草苑保育専門学校の入学式でした。聖書の開き方も分からず、やっと開けた時には、読み終えており、キョロキョロしていたことを思い出します。それが初めての礼拝でした。そんな私がなぜか礼拝委員になり、毎日の礼拝で奏楽や司会をしていました。礼拝の前奏曲や讃美歌を弾くことが好きだったのを覚えています。なぜ礼拝委員になったのか、全く覚えていないのが不思議です。

その頃アルバイトをしていた小さな保育園では、園長先生から聖書の言葉が書かれた薄い本を頂いたことがあり、なんだかうれしくて、毎日少しずつ読み進めた日々も思い出します。

初めて勤めた南部坂幼稚園では、渡邊義彦先生から、月に1回ひよこの会という、聖書研究の時が与えられました。まだひよこの私達にとっても分かりやすく楽しく聖書のお話をして下さり、忙しい日々の中で、ホッと一息つける時間でした。

南部坂幼稚園を退職し、幼稚園の仕事から

離れていた私に、会いに来てくれる友人がいました。近所の教会付属の幼稚園に勤めていた栢田知恵ちゃんです。私は幼稚園勤めからも離れ、疎遠になっていってもおかしくない環境にいましたが、定期的に食事に行ったりずっと仲良くして頂いていました。うれしいことです。

知恵ちゃんは、教会の幼稚園で日々懸命に働き、大変そうでありながらも、私には輝いて見えました。そんな知恵ちゃんと触れ合う中で、ある日再び、幼児教育に携わりたいと強く思い、代々木教会付属のシオン幼稚園に就職をすることになりました。保育者生活の復活です。そして再び礼拝をする日々を送るようになりました。神様との再会です。

シオン幼稚園では日々の保育の中で聖書のお話をする時間があります。クリスチャンでない私にとって、聖書のお話をするのに難しさを感じており、周りの先生達から助言を頂きつつ、聖書の勉強の日々でした。子ども達にお話をしながら、自分自身が神様の御言葉に心を動かされていたように思います。

ノアの箱舟やアダムとエバの話を影絵にし、子どもたちや父兄のみなさんにお話したことは特に私にとって良い経験になりました。

一身上の都合により、いったんシオン幼稚園から離れたのですが、今年より再びシオン幼稚園で勤めることになりました。担任として、なによりこれからはキリスト者として、神様の愛を子どもたちに伝えていきたいなと思っています。



そして、いつも近くにおいて話を聞いてくれていた柘田知恵ちゃんと同じ教会でまさか自分も洗礼を受けることになるなんて、驚きです。

これまでの間、事あるごとにお家に招いてくださり、クリスマスには、ご馳走を囲み、お祈りの中に私のことも入れてくださり、家族の中にまぜてくださった柘田家のみなさんの愛は、なによりジワジワジワ〜と私の心に浸透していきました。

いつもパワフルで元気一杯の知恵ちゃんのお母様、柘田京子さんにも感謝致します。たくさんの人との出会いが私の信仰心を育ててくれました。神様との出会いも色んな場面

であり、時間をかけて私をここに導いてくださったことに感謝します。

今、新型コロナウイルスのことで、世界中が大変な状況の中にありますが、こんな中で受洗の時を迎えられたことは、なにか意味があるように思えます。

これから神様とともに歩いていけることは、私の支えとなります。この喜びの日を忘れずに、新しい歩みができますように。柿ノ木坂教会のみなさまとの出会いに、心から感謝申し上げます。1日も早く、マスクをとってみなさんと交流できる時が来ますようにお祈りしています。

これからどうぞ宜しくお願い致します。

ウィルス感染拡大に対応した教会の在り方について

2020年4月10日 〈主の受難日〉

柿ノ木坂教会牧師 渡邊義彦
柿ノ木坂教会 長老会

教会の在り方が、ウィルス感染拡大への対応の中で、根本から改めて問われています。

4月5日には臨時長老会を開催し、感染拡大が懸念されはじめてから、2月23日週報より、主日毎にウィルス予防対応について、その都度、更新し告知してまいりました。けれども、礼拝を欠席された方々には、週報が届かないこと等から、教会の対応について不安を持たれたことと存じます。牧師、長老会からの報告が遅くなりましたことを心よりお詫び申し上げます。

4月5日時点で取り決めましたことを、週報に掲げてきました報告に沿う仕方です。以下に概略としてお伝えします。なお、4月7日に国より緊急事態宣言が出され、東京都、近隣県より緊急事態措置が出されますが、現時点では臨時長老会にて決定したことに変更はありません。今後、緊急的に状況等の変化が起り、対応を変更すべきときには、できる限り速やかに教会員の皆様に対応をお伝えするよういたします。

*教会の礼拝、諸集会は当面通常通り行ないます。

主なる神の召し、招きによって教会は存続します。この招きにお応えする自由を誰も妨げることができません。礼拝によって、御言葉と聖餐によって、わたしたちは命をいただきます。この命は地上に与えられる年月を生きるだけの命ではなく、わたしたちが地上の人生を終えたとしても与えられてゆく命です。この命にかかわる時と場所を誰も閉じることはできません。迫害の中で地下の墳墓にキリスト者たちは集まり、空襲の中で崩れかけた礼拝堂に集まり教会は礼拝を続けてきました。わたしたちが属する柿ノ木坂教会も礼拝のつながりを信仰の先達が守ってきてくれました。この礼拝をわたしたちで途切れさせることなく継続したいのです。主日礼拝を継続するため皆さんの祈りが重要です。

諸集会についても継続を原則としました。主日から主日への歩みが、これほど長いと思われたことはありません。一週間のうちに世界の状況、情報は目まぐるしく変わってゆきます。主日礼拝にはリスクの管理を考えて出席はできないけれども、週日に行われる小さな、少人数の集会であれば出席できるという方たちもいます。祈り合う場と共に、具体的な実務を進めなくてはなら

ない会合があります。一齐に諸集会を休会とはせず、委員会担当長老、集会担当者、参加者、および牧師が、その都度、話し合って開催、休会を決定してゆきます。例会として行ってきた委員会、集会が不定期になります。週報にそれぞれの開催、休会をお知らせします。確認のうえ出欠を判断ください。

***礼拝等への出席の際は、ウィルス対応のため基本的な予防処置を取りましょう。**

礼拝、集会のために次のことを行っています。

- ・礼拝、集会の際の換気、窓の開放に心掛けています。
- ・手すり、座席等のアルコール消毒をできる限り実施してまいります。
- ・着席の際、間隔を空けて着座なさるよう促してまいります。

礼拝、集会に出席される方々は次の点に心掛けてください。

- ・できるかぎりマスクを着用してください。
- ・入室の際には、手指のアルコール消毒、手洗いなどを行ってください。
- ・会話を交わすときには、それぞれ距離を保つようにしましょう。
- ・体調が悪いときは出席を控えてください。

***出席については、それぞれの判断にて無理をしないようにしましょう。**

とても難しい判断を皆さんに委ねています。特に主日礼拝に出席することが当たり前、当然であり、いつでも出来ていたところから、困難な状況の中でそれぞれの判断をしなくてはなりません。一律の判断規準を設けることができません。「不要不急」と言われますが、わたしたちの霊的な命にかかわることを、それぞれで判断しなくてはなりません。一つの手立てとして、主日礼拝に出席できない方たちのために、次週週報を、前週の週末にはデータ配信、郵送、近隣教会員の自宅ポストへ投函等によってお届けします。データ配信には、メールアドレスを登録していただいた連絡網を活用します。メールアドレス未登録の方、アドレス変更の方がいましたら、牧師、長老までお知らせください。週報をお届けするのは、主の日に礼拝堂へと上って来て、手にする週報を確認してきた習慣を自宅でも続けていただくためです。そして、主日には、礼拝堂で行われる礼拝の時間に合わせて、主日礼拝式順序に従って、聖書を開き、招詞から、その日の聖書箇所へと御言葉を読んでください。讃美歌を一人で歌うのは難しいかもしれません。歌詞を祈りの言葉として読んでください。今、現在的手段では説教をお届けすることが適いません。説教者、礼拝堂に集まっている会衆のためにお祈りください。離れていても一つの御言葉に養われることを続けてまいります。

***当番等、担当について調整が必要な場合は、牧師、長老に相談ください。**

お送りする週報からは、礼拝のための当番表一覧を削除します。出欠未確定のまま氏名が一覧に載ってしまうことを防ぐためです。また、当番を担うことが義務、負担となることは、信仰に基づいた健全な奉仕とはなりません。またリスク管理から当番を辞退されることもあると思います。当番交代については、牧師、長老に相談ください。現時点で配付されている当番表に基づいて、次週当番の方々に、担当長老から問安を兼ねて、出席の有無を確認する電話を差し上げています。その際、どうぞ、遠慮されることなく、交代希望の有無をお伝えください。交代の場合、調整を牧師、長老にて行います。

***以下、主だった年間行事についてお伝えしておきます。(4月10日現在)**

- ・復活日礼拝(4月12日)を含め、以降の主日礼拝を通常の礼拝として行います。
- ・定期教会総会 4月19日(日)開催を予定していましたが、6月28日(日)主日礼拝後に延期します。「教会総会議案・報告書」をお手元にお届けします。選挙管理委員による不在者投票の受付を開始しています。
- ・花の日合同礼拝 毎年5月第2主日(5月10日)を教会学校との合同礼拝としてきましたが、

今年度は合同礼拝とはせず、通常の主日礼拝とします。

- ・6月伝道月間 広報を従来どおり行うのは難しいとしても、伝道への志を新たにすする月間として一つ一つの主日礼拝をささげます。

***教会学校について** 子供たちの礼拝の場を閉じることは断腸の思いでしたが、祈りをもって4月12日より休校といたしました。現時点では5月10日より再開を予定していますが、再開判断を牧師、教会学校校長にて行います。教会学校の子供たち、その家族、教師、奉仕者たちのため共にお祈りください。

***ベテル幼稚園について** 始園式を5月12日(火)、入園式を5月15日(金)に延期しました。

***この困難の中で、主の御名を呼び祈ることは教会にだけできることです。それぞれの祈りと共に、特に、次のことに祈りを合わせましょう。**

- ・ウィルスの猛威から世界が守られるように。・身近にある感染症罹患者の十分な快復と魂の健やかさのために。・教会の中にも医療に従事しウィルス予防、治療に力を尽している兄弟姉妹たちがいます。医療の前線に立つ方たちのために。・新しい歩みを止めていなくてはならない幼子たち、子供たちがいます。彼ら、彼女たちの霊的な健やかさと、成長が守られるために。
- ・幼子たち、子供たちの保育、教育に携わる人々が限定された環境の中で、子供たちにアプローチしようとしています。彼ら、彼女たちの保育、教育が創造的に進められていくために。
- ・青年たちが学びの場、働き場の場について。彼ら、彼女たちの学び、働きと健康のため、十分な休養のために。・主日に礼拝堂に上ってくるのが生活の大切なリズムであった高齢の方たちがいます。家庭に留まらねばならない中で、これらの方々の健康と信仰が守られるために。
- ・この困難の中で、洗礼を望み、信仰告白を志す人々が起こされています。道を求め信仰の歩みをはじめておられる求道者の方たちのために。・教会活動を継続するために献身的に労している長老たちの奉仕のために。

最後まで忍耐をもってお読みくださりありがとうございます。意を尽して伝えるために長文となりました。不明な点や心配、意見、また訪問の希望などがあれば、どうぞ、牧師、長老まで伝えてください。皆で、礼拝堂にて礼拝をささげ、祈りを共にする日を心から願っています。

以上

ご参考 戦時下の柿ノ木坂教会の礼拝（*柿ノ木坂教会50年誌より）

1944年（昭和19年）

- *7月9日週報「礼拝、祈祷会は警戒警報下に於いても教会に於いては常の如く守ります。その他の集会については、開会二時間前に解除にならぬ場合は中止。」
- *12月17日週報「夜間の外出困難になると共に空襲の可能性濃厚になるため、定例祈祷会は当分休止、但し非公式の祈祷会は継続」（注：灯火管制で夜は真っ暗）
そのころ、礼拝出席者は牧師夫妻と病弱の木藤神学生、お隣の小花千枝、土師ちゑのみ。
- *小川牧師は警視庁動員課より園池製作所に出勤命令。園池に礼拝のため、日曜欠勤の了解を得る。

1945年（昭和20年）

- *5月7日 牧師家族も疎開し小川牧師一人、教会に留まる。小川牧師に応召のため禁足令来る。

「私の好きな聖句、私の好きな讃美歌」

吉岡 晶子

——私の好きな聖句は——

○詩編第 23 編

「エホバは我が牧者なり 我をみどりの野にふさせ いこの水ぎわにともないたもう エホバは我がたましいを生かし 名のゆえもて我を正しき路にみちびき給う たとえ死のがげの谷をあゆむとも わざわいをおそれじなんじ我とともにいませばなり」

聖書が与えてくれた言葉でした。大きな愛につつまれている気持ちにさせてくれます。

○テサロニケの信徒への手紙 一 第 5 章

「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんな時にも感謝しなさい。これこそ、キリスト・イエスにおいて、神があなたがたに望んでおられることです。」

神様に日々助けを求めて祈ることの多い毎日です。人に話すよりも、神様に話せばわかってもらえるとの思いからです。

話す相手がすぐそばにいて下さる幸せをかみしめ、祈っています。

神様に感謝と言えば、最近物忘れがひどく、危機一髪で失敗をしでかさないう時も、いつも神様がそのあやまちが起こる直前に気づかせてくださる事です。私にとってそれは奇跡という他ありません。祈ることにより救われています。自分は神様に守られていると一人合点しています。

——私の好きな讃美歌は——

*編集者注：いずれも 1985 年初版の「讃美歌」

- 23 来る朝ことに・・・
30 あさかぜ静かにふきて・・・
108 いざうたえ いざいわえ・・・
270 信仰こそ 旅路を・・・
285 主よみ手もて ひかせたまえ・・・
288 たえなる 道しるべの・・・
292 はてしも知れぬ・・・
301 山べにむかいてわれ・・・
312 いつくしみふかき・・・
316 主よ、こころみ うくるおり・・・
320 主よ、みもとに 近づかん・・・
332 主はいのちをあたえませり・・・
333 主よ、われをば とらえたまえ・・・
380 たてよ、いざたて・・・
405 かみともにいまして・・・
461 主われを愛す・・・
494 わが行くみち いついかに・・・
515 十字架の血に・・・
517 「われに来よ」と 主は今、・・・
536 むくいをのぞまで・・・

若い時になじんだせいでしょうか、どうしても口語訳の古い讃美歌の方が心に響きやすく、神様からの言葉の様に感じられるのです、讃美歌を歌うと気持ちが明るくなります。最晩年、たとえ病床にあっても讃美歌を口ずさむ事が出来る様に、今から心掛けたいと思います。

☆☆☆ 教会の行事 ☆☆☆

◇今まであったこと

4 月 12 日 (日) 復活日 (イースター) 礼拝 (愛餐会はコロナウイルス対策の影響で中止)

5 月 31 日 (日) 聖霊降臨日 (ペンテコステ) 礼拝 (愛餐会はコロナウイルス対策の影響で中止)

◇これからの予定

6 月は伝道月間。特別伝道礼拝が行われます。7 日と 14 日 渡邊義彦牧師、21 日 小泉健牧師 (東京神学大学教授、成瀬が丘教会牧師)、28 日 松下恭規牧師 (当日の奏楽は鷺晶子氏)

今月のメッセージ

— ホームページページ巻頭言 —

ホームページには多くの情報が掲載されています。
ぜひご覧ください
<http://kakinokizaka-church.com>

主を畏れることは知恵の初め。
(新共同訳聖書・箴言第1章7節)

正しく恐れることだ、と今回のウィルスの感染症対応で早くから言われていました。しかし、正しく恐れることがいかに難しいかも、この数ヶ月の間、痛感させられてきました。情報過多によって、また逆に限られた情報、偏った情報によって判断を下すことが困難になっています。何が正しいことで、何を基準にして恐れなくてはならないのか、または安心していいのかが、日々交代してゆく中で疲れてしまっている、麻痺してしまっていることがあるように思います。

対応のはじまりには、マスクは効果がないということが言われたりもしました。一転マスク不足が起り、過度のマスク依存はノーマスクの人を裁くような思いをわたしたちに抱かせたりします。若者たちが感染しても無発症で感染を拡大させている、ということも初期には言われたりもしました。今は若者たちだけではないことははっきりとしてきました。この中で、基本的な感染予防策として手洗いをするはずと一貫しています。手を洗う機会は以前に比べだいぶ多くなりました。

昨日正しいと言われていたことが、今日は間違っていると言われることを何度も経験してみると、正しく恐れることができなくなり、闇雲に恐れるだけになってしまうか、もう恐れることさえもせずに考えることも止めてしまうかになってしまうのだらうと思います。わからないということがわたしたちを不安にします。声高

な警告や、人を裁く言葉や、はたまた頑張ろうという掛け声が横行します。

治療法が確立されて予防法がわかれば、感染力にはより注意が必要であるとしても、毎年起こるインフルエンザや風邪のように必要以上に恐れることはなくなり、正しく恐れることができるようになるのでしょうか。それまでの時間と、忍耐と工夫とをなお必要とします。

聖書は、わたしたちに、神を畏れることが知恵の初めである、と教えます。このときの「おそれ」を日本語は丁寧に「畏れ」としました。ここには、信仰をもって神を仰ぐときに、単なる恐怖だけの恐れを思うのではないことが表現されています。神がときとして厳しくあること、わたしたちの人生に困難、苦しみをお与えになることがあっても、唯々、恐怖の恐れに怖がるのではないことをこの小さな言葉は告げています。

神が父としてわたしたち憐れんでくださること、神が全能である方としてこのようなときをも支配くださっていること、イエス・キリストにおいてわたしたちにほんとうに恵み深い方であること、このことからわたしたちは神を正しく畏れるのです。

日々の情報の中で、風に弄ばれる葦のごとく、わたしたちは愚かにもなおも右往左往するでしょう。しかし、このような中で御言葉に聞きましよう。御言葉が確かに、主なる神の御心を示してくれるのですから。あなたに、今日必要な言葉が届きますようにと願います。

(牧師 渡邊 義彦)

編集後記

- ・新型コロナウイルス対応のため、様々な試練を迫られています。教会の礼拝はどんなことがあっても守らなければなりません。かつて、戦時下の柿ノ木坂教会の週報をみて、先人の非常時の対応が参考になります。
- ・この復活日礼拝で受洗者を与えられ、感謝します。紹介記事を書いていただきました。共に神にある交わりの内に加えられ、良いお働きをされるよう祈ります。
- ・「私の聖句・讃美歌」を拝見し、執筆者の今までのキリストによる歩みを、感じさせられました。
- ・教会報へのご意見、ご感想をお寄せください。
(編集委員長 井澤浩一)

集会案内

主日礼拝 日曜日 午前10時30分
聖餐夕礼拝 第1日曜日 午後5時
入門講座 日曜日 午前9時30分
教会学校 日曜日 午前9時
(幼稚科、小学科、ジュニアチャーチ)
*ジュニアチャーチは中学生、高校生です。
聖書と祈り会 水曜日午前10時、午後7時30分
日本基督教団 柿ノ木坂教会
〒152-0022 東京都目黒区柿ノ木坂1-31-19
電話 03-3717-3870 (教会・牧師館)
03-3723-3870 (ベテル幼稚園)
牧師 渡邊 義彦
協力牧師 松下 恭規